

令和3年度地域学校協働活動研修会（後期）

- 1 目的 おかやま子ども応援事業等の教育支援活動を効果的に進めるために、地域連携担当教職員、地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター、学校支援ボランティア、放課後・土曜日等支援関係者、家庭教育支援関係者、公民館関係者、行政関係者等の資質の向上を図る。
- 2 主催 岡山県教育委員会・おかやま子ども応援推進委員会
- 3 日時 令和3年11月12日（金）13:30～16:00
- 4 会場 津山市中央公民館
- 5 参加者 地域連携担当教職員、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、学校支援ボランティア、放課後・土曜日等支援関係者、家庭教育支援関係者、公民館関係者、学校・家庭・地域の連携・協働に興味関心のある方、行政関係者等

6 日程

- 13:00～13:30 受付
- 13:30～13:35 開会
- 13:35～14:45 【講演・ワークショップ】
- 「地域学校協働活動の充実」
- 講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
社会教育調査官 いしづ たかね 石津 峰 氏
- 14:45～14:55 休憩
- 14:55～15:40 【情報交換】地域学校協働活動の実践について
- 15:40～15:55 【講師による指導・助言】
- 15:55～16:00 閉会



【講演・ワークショップ】

- 1 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール
 - ・今後の地域における学校との協働体制のあり方等
 - 【グループで話してみよう①】「地域における理想の子ども像」
- 2 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの状況
 - ・地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な整備状況等
 - 【グループで話してみよう②】「地域と学校の理想の関係性」
- 3 地域学校協働活動推進員の役割
 - ・これからの学校づくり・地域づくりに必要な視点等
 - 【グループで話してみよう③】「継続するために必要なこと」
- 4 まとめにかえて
 - ・地域学校協働活動の事例とポイント

【情報交換】

- 1 個人思考 地域学校協働活動の実践と新たなアイデア
- 2 グループ交流 「学校の活動」と「地域の活動」
- 3 全体交流・質疑応答



どうして今、連携・協働が必要なのか

連携・協働の3本の柱

- 1 地域とともにある学校
- 2 子どもと大人が学び合い育ち合う教育体制の構築
- 3 学校を核とした地域づくりの推進

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を応援
地域の子どもは地域で育てる

社会的育力 学校を中心に育む力が伸びる 学校教育
地域の方への育力 地域の育力が生まれる 実践的育力

16年後、20年後、その先...
「いつまでも住み続けたい○○でありたい」
共に将来の担い手を育む活動

今度、地域の定規があるから、先生と子どもたちにも参加してほしい。

この前、環境整備を学校でしてもらったから、行かないといけない...

◆学校と地域との連携が「貸し借り」になっていないか。

◆どちらかの一方的な支援になっていないか。

今度、生活科の授業で野菜の苗を借りたいから、先生にお願いしたいんだけど...

学校は、暇なことばかりだ...

地域学校協働活動の充実を図るために！

学校の活動 地域の活動

学校と地域が共に学ぶ場、今後もあるとよいと思います。

《感想》

- ・地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの関係を整理できました。各取組や活動のねらいを明確にし、地域の方と共有し、役割分担をしていく。まずは、今ある活動をより児童が主体的になるように。(教職員)
- ・学校の活動も大切ですが、もっと地域の活動に目を向ける必要があると感じました。(教職員)
- ・コロナ禍で中止になったり規模が縮小されたりしたものがあるが継続したい。こんな時だからこそ、地域学校協働活動が担う役割は大きいと思う。(推進員)
- ・ボランティア同士のつながりを広げていきたいと思いました。(推進員)
- ・「何もしないボランティア」「トークフォークダンス」「ウォークラリー」等、事例が参考になりました。(推進員・教職員)
- ・学校と地域が共に学ぶ場、今後もあるとよいと思います。(推進員・教職員)